

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105487
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム杜の里
所在地	松山市鷹子町185番地1
自己評価作成日	平成22年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの基本理念である「あせらず あわてず あきらめず」手が届く 目が届く 心の届く生活を支援します」を大切に、職員が一丸となって、利用者様と真の家族のような信頼関係が築けるように日々を過ごしています。協力医療機関が母体である為に、日常的な健康管理に対してのバックアップも安心でき、最後までお付き合いができるように介護技術の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

テーブルの上には、コスモス等の季節の草花が生けられていた。壁には、季節ごとに、行事や外出時の写真を大きくプリントして貼ってあった。2階ユニットには、水槽に金魚を飼っておられ、利用者が餌やりをされることもある。1階ユニットでは、新聞を読まれる利用者が小さなホワイトボードに、その日、気になったニュースを書いており、調査訪問時は、「チリ落盤事故70日目」等と書かれてあった。利用者は、午前中はテレビを見て過ごされることが多いが、一日のうちに少しでもお手玉や風船を使って、レクリエーションを行う時間を作られている。訪問者用のスリッパは、子供用のスリッパも用意されており、汚れた物は取り替えるようにされている。週に1度、ご家族と外食され馴染みの美容室へ行かれる方や携帯電話をご自分で持ち、お好きな時にご家族や友人とお話されている方もある。又、手紙のやり取りをされる方を職員がサポートされている。利用者の親族が亡くなった時には、職員が同行して葬儀に参列された。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 杜の里

(ユニット名) ふきのとう

記入者(管理者)

氏名 佐伯 伸治

評価完了日 平成 22 年 10月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者は職員の研修を推進しており、県GH協議会が主催する研修等外部研修に積極的に参加を促している。また、職員が資格取得する折にはサポートされている。介護計画について研修を行い、全職員で知識を深めた。	
			(外部評価) 事業所では、パンフレットの中で理念について説明され、利用者が「地域の一員として」その人らしく暮らしていけるよう、支えていくことを示しておられる。管理者は、地域の方が「入って来やすい事業所作り」をすすめていくために「ホーム側から地域の方に声をかけていくことが大事」又、地域に対して「何かできることがあれば力になりたい」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 杜の里バザーの時は近隣のスーパーや銀行・小学校にチラシを掲示していただいた。その結果、利用者の家族、地域の方達に来て頂き、交流する事が出来た。また、町内の福祉講座・盆踊りなど、地域の行事ごとに参加している。ホームの畑の指導・お手伝いなどにも来て頂き、ご近所との交流となっている。	
			(外部評価) 事業所で毎年行われる5月の恒例のバザーには、今年も多くの方々が来られた。バザーでは、民生委員の方がお茶席を催して下さったり、大学の吹奏楽部の方達の演奏を利用者とともに楽しまれた。地域の夏祭りに出かけた際には、利用者はフラダンスの出し物を楽しまれたり、ヨーヨー釣りもされた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 包括支援センターの協力を得て、地域の方々に対して、認知症サポーター養成講座を開催し、理解を得る機会を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して、日常的な地域の方との交流を含め、様々な意見を聞く機会になっている。行事を開催したり地域行事に参加するに当たって、地域に根ざした運営に反映出来るようになってきていると思う。</p> <p>(外部評価) 会議では、外部評価の結果を報告されたり、町内会長から「認知症について知りたい。」との要望があり、認知症サポーター講座を開催された。又、地域の「福祉部」の方からは、2ヶ月に1度公民館で開催している「子供と母親の交流会を事業所で行ってみてはどうか」との提案をいただき、ケアマネージャーが交流会を見学に行かれた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して、ちょっとした相談をする機会がある。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議で認知症サポーター講座を行った際、地域包括支援センターの担当者の方に講師をお願いされた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に関する勉強会を実施している。ベット柵の必要な人は家族の同意を得ている。日中、玄関の施錠はしておらず、安全確保のため、ドアセンサーを設置している。安全確認のため2階入り口にもマット下にセンサーを設置している。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸になっており、出入り時にはセンサーが作動して鳥の音が聞こえるようになっていた。外に出たい方には、一日に何度も職員が同行されたり、ご本人の体調等も見ながら、場合によっては、気持ちを逸らしてもらえよう対応されている。現在、ベッドからの転落防止のため、ご家族の同意を得て、ベッド柵を使用している方がおられる。</p>	<p>現在、ご本人の状態も安定してきたこともあり、柵を外すことも検討されていた。拘束について、職員で勉強されたり、ご家族も共に拘束をしないケアの工夫等についても話し合いを重ね、実践に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員の間で共通の意識を持ち、言葉にもひとつひとつ気をつけて対応している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について学び、よく理解した上で必要性のある個人に対して活用し、援助できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、契約書に沿って分かりやすく丁寧に説明を行っている。その都度いろいろなことを相談できるような関係作りに努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や日常の面会の機会に、ご家族からの要望が聞きだせるように声かけを行っている。要望に対してはすぐに反映、解決できるようにしている。 (外部評価) ご家族には毎月、行事時の様子や利用者の表情がわかる写真を多く載せた「杜の里だより」を郵送されている。又、ご本人の様子や暮らしを書いた手紙も同封されている。利用者の身体に変化が見られたら、ご家族に電話連絡されているが、時にご本人の対応等に追われ事後報告になることもあるようだ。介護記録の提供を希望されるご家族には、日々の経過記録である「24時間生活変化シート」をコピーして渡すようにされている。	事業所では、行事や運営推進会議に参加いただけるようご家族へ案内を郵送されているが、現在、参加いただけるご家族は少ないようだ。さらに、ご家族が参加しやすい運営推進会議となるよう工夫されたり、会議の様子や会議の内容についても全ご家族に知らせていかれてほしい。又、事業所の普段の食事を食べていただきながら食事支援についてのご意見をうかがったり、入浴や外出支援、又、日中の過ごし方等、事業所の取り組みや支援をさらに具体的に知ってもらいながら、ご意見をうかがってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングでの話し合いや、個別の面談で個人的な意見がいつでも言える関係を持って職員全員の力で反映させていきたいと思っている。	
			(外部評価) 職員の手不足等の理由から1階ユニットの昼食は、週2回仕出し弁当になっていたが「手作りのものを食べていただきたい」という1階ユニット職員からの意見等もあって、2階ユニット職員が1階ユニットの昼食作りに協力されるようになった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎月各自が自由に希望休を申請できて急用などは勤務状況を調整して融通をしてもらっている。家庭や個人的な事情を優先してもらえるので、仕事のやりがいにもつながっている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員はケアのレベルアップに繋がる研修に年間2～3回以上参加している。ミーティング等で研修の報告をしたり、勉強会をしてスキルアップの向上に努めている	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域のGH交流会に参加し、意見交換したり、毎年相互評価にも参加している。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス提供前に、利用者様としっかりと面談を行い、不安なく生活の場所が移動できるように努めている。また、これまでの関係者の方にも協力が得られるような連携作りを行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス提供前にご家族ともゆっくりと面談する時間を持ち、グループホームでどのように生活していくのかを十分に話し合いように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居相談時に、必要な場合はグループホームの事だけではなく、必要なことについての相談が出来るように支援している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の方を真の家族のように思う気持ちで職員は業務にあたっている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人様とご家族様のつながりにも配慮しながらご家族からの情報・ご協力も得ながら介助できるよう心がけている。 御家族の希望により、毎月の記録の提供も行っている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お友達や知人の方の来訪は良くある。訪れるのを待つだけでなく、懐かしい人や場所を訪ねられるよう支援したいと思う。 また、ご友人の方などより手紙等を季節に応じて送ってきて頂いているので、馴染みの関係を継続できていると思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週に1度、ご家族と外食され馴染みの美容室へ行かれる方や携帯電話をご自分で持ち、お好きな時にご家族や友人とお話されている方もある。又、手紙のやり取りをされる方を職員がサポートされている。利用者の親族が亡くなられた時には、職員が同行して葬儀に参列された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が気遣い、良い関係を保てていけるよう行動や会話のやり取りを気遣っている。 利用者同士で協力し合いながら生活できているように思う。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も状況に応じて相談できる関係作りに努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人とゆっくり話す時間が持てているとは必ずしも言えないように思う。 個別に会話をして、一人一人の思いを聞けるように支援している。 (外部評価) 日々の経過記録である「24時間生活変化シート」に、ご本人の言葉や職員の気づきを記入して利用者ご本人の思いの把握に努めておられる。	利用者とはゆっくりかかわるような機会を作ったり、日々の中から知り得た情報を蓄積していけるような様式等を工夫してアセスメントに取り組み、ご本人の思いや意向を探っていかれてはどうだろうか。又、ご本人の終末期のあり方についての希望や思い等についても、機会をみて探ってみてはどうだろうか。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との会話の中から生活歴などの把握をし、その人らしい生活をして頂けるよう心がけている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 残存能力を十分活かし、役割を発揮していただく事で、生活の意欲につなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者がよりよく暮らす為に課題を作り、ケアの仕方についてご家族やケアマネ・他の関係者と情報交換し、意見を出し合ってみたり、アイデアを反映し、現状に即したケアプランを作成するが、御家族の方に見て頂き、ご要望があればそれを足したり、作り直したりしてご家族に見て納得いく介助をしていければと思う。</p> <p>(外部評価) 3ヶ月毎の介護計画の見直し時には、支援内容について職員全員で意見や気付きを書き出して評価されており、さらに、現在のご本人の希望やご家族の要望を聞き取って、ケアマネージャーが新たに介護計画を作成されている。利用者個々について「重要と思われる支援」を一つ採り上げ、毎日モニタリングを行っておられ、実践状況を確認できるようにされている。介護計画書にはご家族の希望を記入する欄を設け、計画に反映できるようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常生活の中で業務している時に気づきや工夫を記録に記入し、ケアの実践した結果などもスタッフに申し送りしてスタッフ間で情報を共有しながらケアプランの見直しや実践に活かすというのが大事だと思う。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者様の意見を大事にグループホームの中だけにとらわれず、友達と外出したり、温泉施設を利用しに行ったりと柔軟なサービス提供ができるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 町内の方のご協力で、子どもたちと触れ合える機会が持てるように交流を進めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 受診は本人及び御家族の希望を大切に、納得をして いただいた上でかかりつけ医との関係を築きながら適 切な医療を受けていくことが出来るよう支援してい き、これからも関係を築き連絡などをして、適切な医 療を受けれるよう支援していきたいと思う。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が母体医院がかかりつけ医となっ ているが、以前からかかっている病院を受診される方も あり、ご家族が付き添ったり職員が同行されている。 母体病院からは2週間に1度往診があり、投薬につい ては、1週間に1度行われている。又、週に1、2回母 体病院にリハビリに行く方もいる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 日常生活の中で捉えた情報や気付いたことを看護職や 訪問看護師に伝え、相談し個々の利用者に対して適切 な受診したりして医療関係職と連携しながら関わりを 持っていく必要が あり、日々の日常生活の中異変が起きた場合には看護 職や医者に連絡して受診をするよう支援している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 家族と相談を行い体調不良時にはすぐ対応出来るよう 努めている。入院時でもできる限りの支援を行い、早期 の退院・退院後のケアについて話し合い対応出来るよ う体制を整えている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 御家族の希望をお聞きして、必要に応じ重度化した場 合の指針を説明し、ご家族・ご本人の希望を取り入れ るようにしている。</p> <p>(外部評価) この1年間に入居された利用者には、ご家族に重度化 した場合や看取りについて事業所でできることを説明 して、ご家族の希望を聞くようにされている。事業所 での看取りを希望されるご家族もあり、事業所では緊 急対応マニュアル等でいざという時の対応を確認して おられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を実施し、職員の知識向上に努めている。また緊急時の対策マニュアルを作成し、活用している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防の方の指導の下、運営推進会議などと合わせ、避難訓練を実施しており、とても身になっている。	
			(外部評価) 今年10月に消防署の協力を得て、昼間1階からの出火を想定して、利用者も全員参加して避難訓練が行われた。2階からの避難は、外階段で布団や毛布を使って避難させる方法を訓練された。管理者が利用者役になり体験されたが、体への衝撃が大きいことが分かり、担架の購入を検討されていた。スプリンクラーは、来年度中に設置する予定になっていた。	夜間想定や火災以外にも地震等にも備えられたり、いろいろな場面を想定した訓練等も重ねていかれてほしい。さらに、いざという時に協力して下さる地域の方を増やし、地域との協力体制等も築いていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人のその時に応じた対応や声かけをしたいと思う。話を聞きながら尊厳が守られるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、「トイレに行かれますか。」と利用者の耳元で声かけをされていた。利用者が、トイレの戸を開けたまま使用されようとしている時は、職員がそっと戸を閉めておられた。利用者が毎朝顔を洗えるように職員はサポートされており、ベッドで過ごしている利用者には、職員がおしぼりで顔を拭くようにされている。	職員の利用者への対応や言葉かけ等については、勉強会を重ねられたり、時には点検するような機会も作っていかれてほしい。たとえば、ご家族のご意見を聞くような機会を作ったり、来客者から感想を聞く等、いろいろな人の意見をうかがい、それらをきっかけにして取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の思いに必ずしも応じられる事と、応じられない事がある。その都度職員同士で相談したりしている。応じられる事は積極的に対応している。帰宅願望についてはどのように対応すべきか職員での相談もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 介助が必要な方へ常に状態を把握し、さりげなく支援できるよう努めている。 自立している方にももっと声かけや見守りが必要で、希望も言ってもらったり、話し合い支援したいと思う。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装はご本人の希望や御家族の希望を優先しながら季節に応じた服装をして頂けるようにしています。 髪型やお化粧など身だしなみも声かけし持続できるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食材を調達したり、ホームの畑で季節の野菜を収穫しています。(一緒に畑に行き収穫しています。) 下ごしらえや後片付けなどは積極的にして頂いている。 毎回ではありませんが一人一人の好物を食事に取り入れたりしている。	
			(外部評価) 冷蔵庫にある食材や事業所の畑で採れた野菜を使い、その日の食事作りの担当職員が献立を考えておられる。2階ユニットには、調理担当の職員がおられる。2階ユニットでは、パン食を好まれる利用者もあり、朝食の主食はパンとご飯が選べるようになっている。調査訪問時、お好み焼き用のもやしの根とりをされる利用者の様子がうかがえた。1階の昼食は、利用者のご希望もありお好み焼きを作っておられ「ここのお好み焼きは最高に美味しいよ」と、手が思うように動きにくい方も、ご自分で箸を持ち、食べておられる様子がうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) それぞれ摂取しやすい量を調節したり、刻み食やとろみをつけるなどして対応している。また、好みがあるので、代替の副食を用意するようにし、他の方と一緒に食事を楽しんで頂けるようにしている。水分摂取については食事時だけでなく、居室用にお茶を用意し、少しずつ摂取して頂いている。また、摂取量の少ない方は水分量をチェックし、不足しないよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自身で口腔ケアが出来ない方はスタッフが食後ケアに努めている。又、月に1度歯科往診により口腔ケアの指導を受け、清潔保持に努めている。 義歯の方は洗浄剤につけるよう声かけし、対応している。 利用者全員の口腔ケアチェックは完全には出来ていないので、今後対応に努めたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意の訴えない方は、スタッフが気をつけて声かけし、トイレ誘導している。夜間ポータブルトイレを利用されている方もいる。利用者それぞれに排尿間隔が違う為、トイレ誘導し、排泄できるよう支援している。 (外部評価) 利用者個々に排泄チェック表で排泄パターンを把握して、トイレ誘導されている。介護度重度の利用者で紙おむつを使用されている方は、排便が困難だったが、トイレに座ることをすすめ、腹部マッサージを続けることでトイレで排便ができるようになった例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤服用している方、他の方に対しても水分補給に気をつけていただき、おやつや食事で食物繊維を多く含んだものを摂って頂くよう支援している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴拒否のある方は強制的にはしていないが、その時々声かけで入浴して頂けるよう対応している。一人一人の体調に合わせ、入浴していただきながら入浴時でしか聞けない利用者さんとの会話により、その他の今の気持ちや全身変わりないかチェックしている。洗髪拒否のある方には耳栓等を使用し、安心して入浴できるよう促している。 (外部評価) 2日に1度は入浴できるよう支援されている。座位の難しい方については、洗い場にマットを敷いて、利用者の体に負担がかからないようにして体を洗ったり、シャワーを浴びることができるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の生活リズムに合わせて、夜間の安眠にも配慮し、昼間のかかわり方や活動を工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療機関との連絡を取りながら対処している。(変化があれば様子見し記録) 全員が目的・副作用を把握はしきれてはいないので、より努力したい。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出かけた方には個別に外出介助を行い本人の希望がなるべく叶えられるよう支援している。 身だしなみに気をつけている方(おしゃれな方)が多いので季節に合ったおしゃれをして出かけている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方の協力を得たり、皆様と一緒に外出・外食にも行かれている。地域の行事にも積極的に参加している。	
			(外部評価) 利用者から「ドライブに行きたい」と希望がある時は、その時に出かけられるように努めておられる。近くの公園に季節のお花を見に行ったり、最近では見奈良のコスモスを見に外出された。多くの利用者から「にぎりずしが食べたい」という希望があった際には、全員で出かけられ、胃ろうの方も一緒に出かけて雰囲気味わいながら、プリンを食べたようである。暑さが厳しかった今夏は、外出を控えておられたが、夕方の涼しい時間になってから事業所の庭を散歩する等、外に出る機会を作るよう心がけて取り組まれた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる方には本人様に保管していただいている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 気兼ねなく電話をして頂けるように配慮している。 ご本人の希望で携帯電話を持っている方には使い方を説明するなど支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有の空間は 清潔保持するよう努めている。また、季節によって壁などに季節感を出すよう飾りをしたり、テーブルには一年中季節の花が飾られ四季を感じ、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>テーブルの上には、コスモス等の季節の草花が生けられていた。壁には、季節ごとに、行事や外出時の写真を大きくプリントして貼ってあった。2階ユニットには、水槽に金魚を飼っておられ、利用者が餌やりをされることもある。1階ユニットでは、新聞を読まれる利用者が小さなホワイトボードに、その日、気になったニュースを書いており、調査訪問時は、「チリ落盤事故70日目」等と書かれてあった。利用者は、午前中はテレビを見て過ごされることが多いが、一日のうちにも少しもお手玉や風船を使って、レクリエーションを行う時間を作るようにされている。訪問者用のスリッパは、子供用のスリッパも用意されており、汚れた物は取り替えるようにされている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の時間を大切にし、それぞれが好きな場所で好きなことが出来るよう支援している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>壁に好きな写真や思い出のものを飾ったり、居心地の良いお部屋になるように使い慣れたもの、馴染みのある品物を用意するよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>仏壇や遺影を置かれている方がおられたり、ご家族が観葉植物を持って来られている方の居室もうかがえた。2階ユニットは、日中も居室で過ごすのがお好きな方が多く、居室でお茶を飲むことができるように急須等にお茶を入れて置いてあった。多くのおむつ等の介護用品を置いておられる居室については、収納の仕方等、配慮や工夫をされてみてはどうだろうか。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>共有場所を明確に提示している。トイレの入り口には入っている事が分かるよう札を置いて示している。</p>	